

No. 17

1977年7月4日

SSKO

No. 17

東腎協

東京都腎臓病患者連絡協議会

事務局 東京都

〒161・電話・

郵便振替口座・

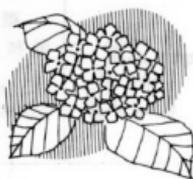
加入者名・東腎協

昭和五十一年二月二十五日第三種郵便物認可
SSKO通巻第百三十九号(毎月二回月曜日・金曜日発行)
昭和五十二年七月四日発行

Tsumanaru.



元・鶴丸和彦



い普通人の生活が出来るか信じられなかつた時ですが、透析が順調にいき、半年後初めて旅に出たことです。この時の山の緑は特に美しく新鮮に感じました。と同時に、今後一生機械を友に生きる宿命をも強く認識したものでした。

透析患者の中には見たい故郷の山も見れず、また食事のコントロールが出来ず水分に負け亡くなった人もあり「自分も何となく何年生きられるかしらん」と思っていた時期もこの頃でした。それから早くも七年が過ぎ、現在では社会復帰をし、家庭、会社、病院の三角関係の生活をしていきます。

今年も風爽やかな頃となり、心うきうきとどこか行ってみたくありませんか。皆様はお変わりありませんか。東腎協の総会も終り、五十二年度の本格的活動が始まりました。

私は、この頃になると毎年思い出すことが二つあります。一時は生死をさまよ

う一つは、東腎協に入会したのも五年前の今頃でした。私は医療のこと、福祉のこと、その他病気に関する諸々のことを全腎協の勉強会、東腎協の役員会、諸先生の講演を通じ知識を得ました。また、他病院、他府県の仲間達の経験談を

聞いて日常生活にプラスになりました。私の透析歴の中で現在の三角関係を維持出来るのは機械と生きる食事のコントロールと医学の将来の進歩を信じ良い意味でのひらきなお精神でできたことだと思えます。

これからの社会情勢を考えた時、私たちには必ずしも良い材料ばかりとは思えません。長期透析者の骨の問題、その他合併症の問題もあります。一方においては腎臓移植の政府予算がとれ、少しづつではありますが前進しております。

このように私たちの会は地道に運動を進めることにより将来誰もが機械を離れ、時間に行きわたることなくたっぷりと緑を堪能出来る旅に出られるのではないでしょう。

そのためには会活動に参加し情報を交換し合つて、方向を誤らず共に進もうではありませんか。

腎臓移植に関心

東腎協第五回総会開く

さわやかに贈られた四月十七日(日)、東腎協第五回総会が港区芝の東京都障害者福祉会館において開催されました。この日は私鉄のストライキが予定されていたので、役員の間で中止しようかとも話し合いましたが、ストも中止され、患者、家族など約百名の参加を得て、たいへんにぎやかな会となりました。

第一部は、午後一時二十分から「死体

腎移植の現状」についての講演が東京女子医大の大田和夫先生より行われました。

腎臓移植は、腎不全の根治療法として大変関心が高く、先生の話に真剣に耳を傾けていました。また、講演の後の質問の時間でも、「提供者の費用の問題」、「現在歩けないが移植で治るか」、「移植の年令はどうか」、「死体腎の提供はどのように行われるのか」など、多くの質問がとび出し、関心の高いことがうかがえました。

第二部は、二時四十五分から総会議事に入りました。議長団は、徳水さん(三軒茶屋病院腎友会)と石川さん(ニーレ

友の会)が選出されました。

まず来賓の日本社会党斉藤一雄都議、全腎協の上田会長よりあいさつがなされた後、五十一年度経過を泉山事務局長が報告、泉山事務局長は「私たちの活動を強めたいと既得権さえ守れない状況になつてしまつたので気を引きしめて活動していこう」との話がありました。続いて五十一年度決算を井田会計が、同監査報告を田中、堀江会計監査より報告され、拍手により一括承認されました。

引き続き活動方針案を平沢副会長が提案、予算案を井田会計より提案されました。

質疑応答の中で「他団体への働きかけや就職問題などは公共機関への働きかけを」、「電話料金の軽減などを電々公社に要請してはどうか」などの意見が出されました。そして、活動方針案、予算案の承認を求めた結果、満場一致の拍手で承認されました。

最後に小川顧問から団結して生きる意識を強くもつと力強い閉会のあいさつがあり幕を閉じました。



演壇

会長あいさつ

宝生 和男

内外ともに困難な状況の中で活動が続けられてきました。その中で、全国にさがけて東京都ではネフローゼ症候群の公費負担が実現されたことは、大きな前進だと思えます。腎移植につきましては、厚生省においてはじめて二五〇〇万円が調査費として経上されましたが腎移植についてはこれからもっと活発に活動していかなければなりません。東腎協のより一層の前進のためにみなさんと一緒に頑張ってくださいと思います。

来賓あいさつ

今後もしつそう
努力します

日本社会党都議会議員

斉藤 一雄

衛生・経済・清掃委員として働らいて

きました。財政の苦しい時ほど福祉に重点的にやる必要があるという立場で、美濃部知事と共に福祉、震災対策などにとりくみ、具体的には、付添手当の新設、福祉手当の増額などを行なってきました。今後ともみなさんと一緒に努力していきたいと思えます。

東腎協の活動に期待する

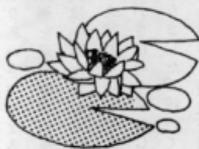
全腎協会長

上田 昭

全腎協一万人の会員を代表して連帯のあいさつをします。全腎協第七回総会が京都にて開催されますが東腎協のみならずもよろしく願います。これまでのいろいろな成果は、活動のうえに前進してきております。息の長いねばり強い活動が今こそ必要です。

「生命を守る」ということから結成された全腎協は「いきがいの追求」へと発展してきました。しかし患者運動の中で残された問題や要求がまだまだたくさんあります。厳しい情勢が続いていきますが頑張ります。福祉元年といわれ

てから今日までできましたが日本の社会保障は、景気が悪くなれば悪くなるという状態です。先進国では、景気が悪くなれば、福祉はのびてきているのに。もう一度社会保障とは何かを考えてみましょう。全腎協の中でも東腎協の役割は、大変大きいのでみなさんの活動を期待しております。



☆☆☆☆☆
祝電をいただきました

☆☆☆☆☆
(敬称略)

▽東京都衛生局長・清水良夫▽東京都
民生局長・町田英一▽都議会自民党幹事
長・村田卯吉▽扶桑薬品(株)東京支店
長・村上八郎▽東亜連役員一同▽ベエ
チエツト病友の会東京支部

▽岐阜県腎協▽富山県腎友会▽福島県
腎協▽千葉県友の会▽愛腎会(愛媛県)
▽熊本県腎友会▽香川県腎臓友の会▽山
梨県腎友会▽神奈川県腎協▽大分県南海
病院腎友会

新役員紹介

今年度選出された役員は次のとおりで
す。

会長 宝生 和男(ニール友の会)

板橋区

白

副会長 一ノ清 明(フェニックス会)

平沢 三吾(こぶし会)

事務局長 泉山 知威(国立王子病院)

渋谷区

白

事務局 糸賀 久夫(西新宿クリニック)
次長 加藤 茂(代々木病院)

高橋勇二郎(西新井病院)

会計 井田 弘之(三軒茶屋病院)

幹事 池井 弘(虎の門病院)

川崎 隆利(三軒茶屋病院)

田中 克人(西新宿クリニック)

堀内 達雄(三軒茶屋病院)

山崎 雅和(在原クリニック)

顧問 小川 忠光(虎の門病院)

小林 孟史(代々木病院)

会計監査 武富 正治(個人会員)

平谷 良治(東村山診療所)

以上です。一年間よろしくご協力、ご
援助下さい。



閉会のあいさつ

東腎協顧問 小川 忠光

私は、山口県の生れですが先日、山口
県の総会に参加してきました。福祉の後
退とくに透析の自己負担への不安などが
出されていましたが急にそうなるとは考
えられない。とにかく活動することが大
切です。会活動を活発にするように言っ
て来ました。活発にやるためには、①第
一に団結して生きること。②病入でない
という気持をもつこと。③活動のバック
アップになる財政の確立、などが大切で
す。

先日、台湾に旅行行って透析をして
きました。機械は、センチエリーが入っ
ており、費用は一回四五〇〇〇円でした。

武富 正治さん

二十二年前発病。しかしその当時は病気の知識はほとんどなかったため、つい人工腎臓にかかる身となつてしまつた——武富さんのお話しは、たんたんとしていましたが、さすが銀行マンらしくキチキチとしていました。

発病の頃

——発病したのはいつ頃ですか

今から二十二年前、四十二歳の時……。私は健康でしたので、病氣したことも風邪をひいたこともありませんでした。病氣に対する知識なんてもちろん全然ありません。それまでずっと会社（銀行）の健診を受けていましたが、ただ、若い時から胃腸が弱かつたもので、隣りが薬局だったのでよく薬を飲んでいました。

その年、野球が好きで六大学野球をみに行つたのですが、春も秋も風が吹いていてホコリだらけになつてしまいました。そして、風邪をひいて扁桃腺がはれて近くの町医者へ行って注射、薬をもらいました。三日くらい休んで、また元に戻りました。春も秋も同じようなことでし

それから、足がはれぼつたので、脚氣かなあと思つたが脚氣でもないの、おかしい、おかしいなあと思ひました。そのうち、仕事が忙しいので無理をしてみました、そのままになつてしまいました。

蛋白検出

翌年の四月だつたかなあ。係りの旅行でそのことを話したら、みんなからみてもらつた方がよいのではと言われた。本庁支店の医務室に来る慶応病院の先生に診てもらつたら「蛋白が出ているから慢性にならないよう明日から入院するように」言われ入院。

腎機能は正常に近いと言われていたが「これ以上悪くならないようにしなさい

ね」とも言われた。私はその意味がわからなかつたんです。

「アメリカでは人工腎臓ができてきましたねえ」という医者の話を聞いたこともこの頃ありました。

——その当時じゃまだ人工腎臓といつてもなんのことかわからなかつたでしょう。

ええ。

十二月の中旬ごろ退院しました。そして通院しなかつたんです。（入院中）同室の人が「慢性腎炎なんかじゃ悪くないですよ。働いている人がいっぱいいますよ」と言っていました。

翌年三月に池袋支店に移りました（それまでは新橋支店）。病院で習つた食事を目標に、多少ひかえめにしていました。池袋には五年間いて、それから日本橋に三年そして東京支店に二年いました。

この間、先生（慶応）から二回くらい呼ばれて検査したことがあります。

医務室には時おりいって、尿の検査、血圧などはかって薬だけはもらっていました。

腎機能低下

昭和四十二年、定年前に医務室に相談したら薬なんか飲まなくてもよいと言われました。この医者は専門ではなかったので、病気のことをよく知らなかったみたいです。

五月に定年退職し、すぐ亀井戸にあるT製鋼に再就職しました。

クソまじめだったから朝早くから夜遅くまで日祭日だけ休みでよく働きました。また、環境も変わったせいもあって、非常に心身ともに疲れました。ここでは毎年健診していましたが検尿はなかったです。

昭和四十七年五月の健診で血圧が一八〇ありました。今までこういうことはなかったので、これは病気が相当進んでいるなと感じました。

会社の嘱託医にいつて今までのことを話し検査したら翌日検査表をくれて、薬行行って下さいとのこと。すぐ、銀行

に動めていた頃の資料など集めて持っていききました。

「腎臓の機能は三十多ぐらいしかないから、食事の管理を覚えるために一カ月入院しなさい」—専門医の診断でそう言われ、退院する際には栄養士から説明を受けました。

そして、会社の方は月二回くらい行くようにして、一週間分ないし十日分くらいの食事のことを書いたメモを病院に送り、これはよいがこれは—というように採点してもらい指示を受けました。

食事指導は三年間くらい受けました。その記録は何年分もあります。通院は週二回でした。

ついに透析

—最初に透析を受けたのは。

昭和五十年十一月、風邪をひいたわけではないが、言葉のろれつが回らない状況になってしまった、病院へすぐかけつけました。この時は、自分ではなんともないが外からみればなんとかあったのでしようね。自分ではよく覚えていませんが…。

先生が「今度の土曜日から透析しましょう」と言われ、一番初めは三時間透析でした。

食事のこと

—透析前に食事管理をキチッとしていたので、透析に入っても食事については余り苦労しなかったでしょう。

食事管理については完全とっていいでしょうね。胃腸が弱いもんですから、最近食欲がなくて…。量は少なくともよいかから数を多く食べたいですね。食事が一番苦労することはカロリーを多くとることですね。病院の指示は二〇〇〇カロリーですが、そんなにとったことはないです。

大正二年三月十八日生まれで現在六十四歳。今は仕事をしないで悠々と生活しているとか。一日の日課はとにかく歩くこと。そして食事は三食自宅できり、外食は絶対しないそうです。透析日は月、木の週二日です。(きき手・加藤)

「腎臓バンク」設立アピール発表

全腎協が京都で総会

全腎協第七回総会が五月八日(日)、京都市左京区・京都會館会議場でひらかれ、全国からおよそ五百人の参加者があり、「腎臓銀行」設立のアピールを発表するなど盛大な総会でした。東京からはニレ友の会を中心に三十二名が参加、東腎協からは五名の代表を送りましたが、その人たちからの感想文が寄せられていますのでご紹介します。

全腎協第七回総会に

参加した感想

承賀 久夫

五月八日(日)五月晴れの良い天気めぐまれた日、京都會館において全腎協第七回総会が開催されました。

五月の京都は、新緑につつまれて、すがすがしい薫風が吹くとても気持ちよい街でした。とくに京都會館あたりの環境は、緑がいっぱいでした。

総会は、午前中の全体会議のあと午後からは、分科会ごとの討論が行なわれました。——第一分科会「腎疾患の予防と

対策」、第二分科会「社会復帰と生活保障」、第三分科会「会活動」。

僕は、第一分科会の「腎疾患の予防と対策」に参加しました。

第一分科会は、参加者が多数おりました。総会会場にて行なわれ、助言者に、上田会長、浦川副会長が出席されておりました。

全体的に、発言が続出して時間が少したりないような状態でした。とくに移植の問題や医療費の問題などに集中して関心が高いことがよくうかがえました。

腎移植については、視点の違いからいろいろなお考えが出されました。やはり腎不全の根治療法としてみんなが真剣

に考えていることはハッキリしているのですがまだ私達患者が自由に選択出来る状態まで体制が出来上がっていないところに問題があるようです。

全腎協役員が述べているのは、この条件づくりをしていくという運動の目標をハッキリすることが大切であるということでした。

透析技士の仕事について病院によってその役割が違っているがどう考えているのかという質問に対しては、地方によってはまだ透析技士のいないところもあるようなので社会的に理解をさせていく運動を続けていく必要があるということでした。「夜間透析普及のため診療報酬の改善を」のテーマに対しては、診療報酬の夜間加算により夜間透析が普及するようになるとの内容になっておりますがその点についても多くの人の意見が出されました。

透析の診療点数は、一回で五、六〇〇〇点(五、六万円)にもなり高額療養費となつて社会的にも問題になっている折さらに加算するようなことになつてよいものかどうかという疑問や透析点数は高すぎるので引き下げる方向で厚生省でも

検討をくわえているとの話しもあるがどうか、むしろその際のサービスマン下の方に問題が新たに発生しかねないのでは。などいろいろな立場から意見が出されていました。

また、栄養士の人からは、点数が高い割には、スタッフの待遇は決して良くないのので点数を単に引き下げればすむ問題でもないとの意見も出しました。

まとめとしては、透析の歴史をみると透析の普及のため最初は、民間病院の普及のために点数を高くした経緯があった。

三年後ぐらいには、診療報酬が引き下げられるのではないかと、その時のサービスマン下に対する患者会の対応が重要になる。夜間透析の普及のための一つとして

診療報酬の改善をあげたもので、他に良い方法があれば、考えていきたいとの話しが全腎協役員から出されました。

その他まだまだ多くの意見がありました。だが時間的な関係で途中でしめくくられました。

この総会に参加して少しは広い視野で全腎協を知り得たような充実感をもつことが出来ました。それと同時に、私達透

析患者の将来は、決して楽観的になつてはいられず、ますます患者会の役割が重要になってきていると痛感いたしました。



京都タワー

勉強になりました

高橋勇二郎

京都における全腎協総会に参加して考えさせられたことがいくつもありました。

最近、患者の間にある雰囲気で、この病気は健保もきき年金も入ることだからまあまあ無理をせず毎日を無事にすごせばいいじゃないかという声に対し、健康人と同等に働きたいと思っている自分は一つの迷いがあったのです。

総会を前後して会った全国の仲間の元気な活動ぶりは、その迷いを飛ばしてくれました。

海外へ旅行する人、自分ですべて透析する人、歯をくいしばっても社会復帰することから何かをつかんだ話などいい勉強になりました。

また、文集「京腎協一八二五日の記録」の中で、京腎協会長前田氏が透析患者は「いかに生きべきかについて『死を本当に自分の生の中にとりこんだ人はたいへん明るい」と物の本に書いてありますが、その意味から我々（透析者）の存在が世の中を明るく照らす一助にならなければいけないと思う」ということばに感銘しました。

いままで、普通の健康人に一歩でも近づこうと意識していた自分ですが、これからますます世の中、高齢化が進み、生きる目的みたいなものが見失われがちになっている時、もしかすると我々の生き方が普通の健康人に逆に希望を与える次の時代を先取りしたものかもしれない。そんなことを考えながら、京の新緑を心ゆくまで味わってききました。

分科会に参加して 感じたこと

山崎 雅和

第一分科会では、「腎疾患医療と予防対策」というテーマをもとに話しあわれしました。

はじめに、家庭透析普及のこと。次に移植のことが話しあわれ、最後に透析の診療報酬のことで、全腎協は、夜間透析に診療報酬加算を要求しているが、はたして必要なのだろうか、今でも充分高いのではないかという意見が出されました。現在、透析の技術料は、一回二万五千円ほどかかります。週三回の人は、月三十万ほどの技術料を支払っていることとなります。

透析はもうかるといわれています。現に東京をみても、透析専門の病院がふえています。又分科会でも、駅までの送迎をするからこないかと患者を集めるところもあるという発言を耳にしました。

しかし、現在では、確かに点数が高い、もうかる。でもあと三年もすれば、普通

のレベルになるのではないか、又透析というのには目に見えない面もある。例えば透析液を造る水にしても蒸留装置をつかったり、機械の保守、管理、その他、栄養指導など。

そして、もし点数が高いからといって下げた場合、現在のサービスが低下するのではないか。又透析をやめる所も出たのではないかという意見が次から次と出ました。

現在週三回の人で、年間七百一千万円の医療費を必要とします。これだけのお金を使う以上、ただ生きてるだけの透析ではすまされなれないと思います。

社会復帰のための透析、又透析する以上早く社会復帰をするのだという意識を常にもたなければと思います。

第三分科会に参加して

一ノ清明

第三分科会は各県代表一〇〇名が参加し会活動全般にわたり討議されました。主に討議された中の一つに署名運動があ

り各県とも毎年行う署名運動には苦勞をしているとの事で、特にカンパ金がある為に毎年となるなかなか積極的になれないとの理由でした。この事については今迄何回となく問題になった事ですが今回も同様に署名運動をやめる事は後退する事でもありこの様な運動の成果は直ぐに現れるものでもなく、地道に進め波紋を大きくする事が成果につながるものなので各県なりの方法で展開する事になりました。また、これに併う国会請願も従来通りを行うがこれとは別に各党代表議員と全腎協の懇談会も行う予定との事です。この様に会活動は効を焦らず一歩一歩一人一人が心を合わせて行く事が腎臓病患者全体に福音となる事を信じ全腎協、各患者会の皆様、今後も会活動に御協力下さい。



中園さんの 訴えに感銘

加藤 茂

全腎協総会には設立総会から今年行われた京都での第七回総会まで欠かさず参加してきましたが、今度の総会は設立総会の時と同じような重要な意義ある大会だったと感じました。

そして、そのことを裏づけるようなできごととは各地に腎臓バンクがつくられるようになったことです。人工腎臓から移植への道にレールが敷かれつつあり、私たちの運動が今後、新しい方向に向かって歩みつつあるとの認識を強く持ちました。

総会でなんといつても一番印象に残ったものは、特別報告をした福岡県腎協の中園三十日さんの訴えです。

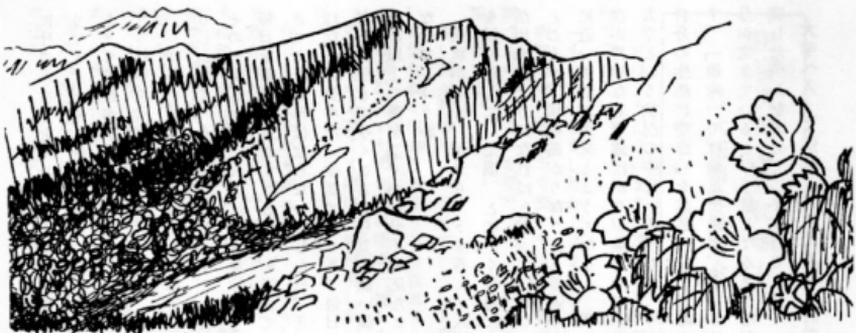
私は耳も聞えなくなり絶望した。だが、絵を描くことによってそれを乗り越えることができたという彼女の訴えに強い感銘を受けました。

総会を終えた夜は、東山会館に宿泊し

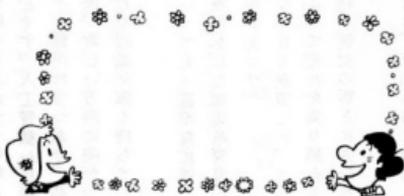
ました。ちょうど全腎協副会長の浦川さんも一緒だったのでいろいろな話を聞くことができました。翌日朝早く南禅寺まで散歩した時に、その浦川さんから歴史の話の聞いたりもしました。

その日のNHKテレビの「スタジオ〇二」に福腎協の小林さんが出演するということで散歩から帰ってからみました。彼女は、総会で会場の一歩前に中園さんらと共に一緒にすわっているのを見ていたのでテレビといってもなんとなく身近かにいるようでした。彼女の訴えは健康人から見ればとても平凡なものです。よくは覚えていないのですが、結婚して子供を生みたいーそんなことを言ったように思います。私はその時、彼女も早く移植が成功してその願いがかなえられたらいいのーと思いました。

私は正直いってまだ透析に入っていないので切実感がないため、不勉強なところが多いようです。総会そちのけでの後の二日間通した京都のことがよく覚えていたため、こんなまとまりのない感想になってしまいました。



□■□■□■
仲間からの便り
□■□■□■



私も入会します

品川区北品川
鈴木 千春

暖かな日々が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。先日は、パンフレットや全腎協、東腎協ニュースをお送り下さり、ありがとうございます。

私は、北品川病院でケースワーカーとしておりますが、当院では腎臓病の患者が多数入院していますので、入院費の間

題、社会復帰の問題など考えさせられる毎日です。

全腎協の主旨、運動方針に賛成する者として、入会したく思いますので、よろしくお願い致します。

(S59年5月14日)

現在の心境の中から

ニレ友の会
奥山 宏

発病して九年、今年の四月で僕は二十五歳になります。しかし、この春でやっと大学の三年、順調にいった人に較べると四年遅れているわけです。

中学や高校の友人達は皆働いていて、女の子はほとんど結婚し、子供がいる人も多いようです。そんな彼等を見ていると、考えても仕方がないことですが、やはり取り残されたという感じは拭いきれません。

本当に後二年で卒業出来るのだろうか。卒業しても就職することが出来るのだろうか。父親がサラリーマンで、継ぐべき家もない僕にとっては、将来のこと、特

に仕事のことを考えると不安は募るばかりです。どんな仕事でもいいから身体にあまり負担がかからず、毎日毎日生活してゆければそれでいいと考えます。

しかし、言うまでもなく人生は一度きりしかなく、人間はいつか必ず死にます。その一度しかない人生は、唯身体を守り、毎日を無事に過ごすことのみを考えて生きてかなければならないとしたら、それはなんと夢のない生活でしょう。毎日を無事に生きてゆくことすら覚束ない僕がそれ以上の夢を抱くのは分不相応なことなのでしょうか。

病状が悪く、ステロイドを吞んで入院を繰り返していた頃、とにかく普通に生活出来るようになればと願っていました。ところが、現在曲がりなりにも普通の人に近い生活が出来るようになると、特に僕が健康な若者達ばかりが集まっている大学という状況の中にいる所為か、今の自分の生活に空虚感を感じてしまうのです。「趣味」では満足出来ず、もっと自分が生きているという証となるような充実した何かを求めてしまおうのです。

大学へ入って僕は、非常に素晴らしい友

人達を得ることが出来ました。彼等は僕よりは二歳から四歳年下で、もちろん健康です。しかし、彼等は僕にはとんだ年輪の隔たりも感じさせず、病気であるというひげ目も感じさせず付き合ってくれ、僕の健康を心配してくれませし、僕の氣持を理解しようとして真剣に努力してくれませす。そういう意味では、僕は極めて幸福だといえるかも知れません。

それでも、僕と彼等との間にはどうしても埋め難い何者かがあります。その原因は、やはり彼等が健康で僕が病人であるという処に由来しているのです。僕と彼等とは、人生に対する、生活してゆくことに対する態度に根本的な差異があると思ふのです。極論してしまえば、彼等が生きてゆくということは「体を張る」ことに他なりません。僕が生きてゆくということは「体を守る」ことなのです。この違いは極めて大きなものです。本質の違いなのです。

逆に、同じ病気を背負っている人達と話をしても、僕は違和感を感じてしまふのです。それは同病の人に親しく語り合う知人がいない所為かも知れません。

最近、僕は健康人でもなく、かといって完全な病人というでもない中間的存在の自分を感じています。もちろん、これから病気が悪化してしまふ可能性は充分すぎる程あるのですから、僕は病人に違いありません。しかし、それでも僕がこれから生きてゆくということは、健康人の社会の中で健康人と付き合ひ、競ひ合つてゆくことに他なりません。

学校を後二年残し、病氣も一応は落ち着いてはいるものの完全というには程遠い状態の中で、僕はなんとなく不安定な氣持で過ごしているわけです。

僕と同じようなことを考えている方、あるいはなんらかのアドバイスをしていただける方がありましたら、お手紙でもくだされば幸いです。

(ニレ友の会機関誌「みちしるべ第49号」より転載)

※ 奥山さんは、ネフロローゼで病歴五年位だということです。

田宮次郎も恋に破れた

大田病院腎友会

荻原金次郎

「おはようございます。選折はこれからですか。」

「もうおわかりましたか。さよなら。」
病院の受付や廊下で交すやさしい看護婦さんのあいさつを受けての二年間の病院生活です。

想い起せば中学二年生の時の淡い片想いに似た女学生にそっくりの看護婦さんが大田病院にいたのだ。「陽炎」嬉しかった。しかも若くて純白な姿が美しかった。

今日も会えるかも知れない。話をしてみたかった。だが、チャンスがない。そばによる口実がみつからない。私はあせった。だが、なかなか会えなかつた。つらかつた。

やっぱり、そつと私一人の物にしておくべきものか？いやそれは違ふと思う。希望持つことは自由である。私に妻や子がいても異性に対するあこがれは許

されて良いのではないか。美に対するあこがれは誰でも求めるのではないであらうか。それが欲望であろう。

「でも、神が私にチャンスくれた」
ついに実現したのだ。忘れもしない三月十八日の朝八時、新館二階の廊下でぱたり会ってしまった。

不意の出来事にうれしさとおどろき、ぼわっと全身に快さがひろがった。女性の好ましい息の匂いと感触が中学生の頃のように懐しく私に甦ってきた。

私は、そっと心の中で「愛している」と囁いた。

ニコリ笑ってくれて「おはようございます」と頭を下げてくれた。人生がバラ色に見えた。甘い香りが私の鼻を刺激した。レンジゲツツジの咲き乱れる高原を満喫している気分であった。こんなに大田病院が大きくなったことはなかった。

ああ、四十八歳になってしかも「腎不全」の患者になって、最初にして最後の「初恋」……。

妻よ子よ。情有るなら許してくれ、純情の男のただ一回の恋を。どうぞ実らせしてくれ。

だが、現実はずきびしかった。私に対しての笑顔の目が一寸づれているのに私はずきびた。羞恥心で顔が火照ったのだ。私の後にスマートな先生がいたのである。

私の初恋は終わった。そしてただけでしまった。不運な男である。美貌と教養の売物の私。銀座のスズメが私のことで騒いでいると思っていたのに……。又、一日でも一時間でも私の妻になりたいと泣いてくれた赤坂のクラブの娘（こ）。おだてられ甘やかされ、恋のイミテーションの眩惑におどらされた私。

でも今からでも遅くない。大田病院に田宮次郎がいるのだ。腎不全になっても美貌はぜんぜんおとろえない。一見イミテーションの方が本物より美しく人の視線を集めるのである。

大田病院の看護婦さん。医療看護も大切な仕事でしょうが、甘いムードに少しは負けても良いのではないのでしょうか。きつと中年男の魅力に引かれるでしょう。

※ ※ ※

この文章を家内に見せたらただ一言、
「小泉先生、いつもお世話になります。大至急、主人の脳波の検査をお願いします。」

います。そして、精神科の先生を紹介して下さいませ。

あらあらかしこ
三知子

日、夜記す）
（昭和五十二年五月十三日、鷹の金曜日、夜記す）



〈編集部よりお願い〉

「仲間からのたより」欄の投稿を会員の皆さんから募集していますので、気軽に書いて事務局（新宿区）までお送り下さい。また、腎友会の機関誌など発行されましたら、事務局編集部までお送り下さい。

「人工腎臓患者カード」
を配付してほしい
など要望出される
(第三回代表者会議で)

五月十六日(日)、午後一時から都障害者福祉会館において第三回代表者会議があり十七名が参加しました。
主な議題は次のとおりです。

一、全腎協規約改正について

五月八日の全腎協第七回総会で、すでに配布された議案書の原案通り、全腎協規約が改正されました。この規約の改正は、現在運営されている全腎協の実情に合わせて改正されたもので、私達に直接関係のある会費については「分担金」と名称が改められ、各都道府県単位の組織の会員数に応じて、構成員一人につき一〇〇円を毎月納入(原則として)することになりました。

従って、東腎協としては、これに対処

するため各腎友会の会員の実数(会費を納入できる人数)を六月十日頃までに東腎協事務局まで報告を受け、その実数をもとに、今後全腎協、東腎協会報を配布することにしました。

二、当面の活動方針について

四月十七日の東腎協第五回総会で決定された昭和52年度の活動方針についての概略の説明と、52年度都予算の福祉関係について説明がなされた。当面の活動として、

- ①都内の透析患者数の把握
- ②腎移植普及の推進
- ③腎移植のできる都立の腎センター設置の運動

などの必要性が確認されました。

三、各患者会からの要望について

各会代表者から次のような発言がありました。

- ①会員に人工腎臓患者カードを配布するよう配慮してほしい。
- ②身障者に、個人タクシーの免許が付与されないか。

③シルバーシートに身障者が優先して座られるようにしてもらえないか。

④最近、透析患者の自動車による事故が多発しているので特に注意すること。

尚、駐車票についても充分規約を守り、せっかく与えられた権利を失わないよう機関誌などを通じて会員に呼びかけてほしい。

四、その他

以上のような要望があり、今後役員会などで討議することに決定しました。

駐車ステッカーの事

東腎協幹事

田中 克人

去る五月十五日(日)、東京都障害者福祉会館において腎友会代表者会議が開かれ、私も出席させて頂きました。

会議の中で透析患者の社会復帰の話から「我々がまた新しく勤務先を変えることは非常に難しいのが現状ではないだろうか」ということから、我々が働こうと思うと自分で何か始めるのが一番良いのではないかと話から「個人タ

クシーの免許が簡単に取得出来れば良いのだが」との話が出ました。

これは、非常に魅力のある問題で免許を取得出来れば大部分の患者が車で通院して居ることから実現したら素晴らしいことではないだろうか。

ところが、個人タクシー免許の取得の現表面はどうだろうか、ということでも出て来た問題があります。

それは、最近透析患者の自動車による事故が多発して事故率が非常に高いとの情報が入って居るそうです。今後、障害者の事故が多発するようだと、我々に対する自動車免許の洗い直し等の措置を取られかねません。そういう情報も入っているようです。

事故を起こせば自分一人だけが苦しむだけでなく周囲もまた苦しめることになるのですから自動車で通院して居る人達には十分に慎重にして下さい。

また、車通院している方は全ての方が駐車ステッカーを持っていられると思いますが、そのステッカーにおいても問題が出て居るようです。

それは、ステッカーを得た時の目的は

通院または短時間の買物駐車位のことでもらいましたが、最近目的以外のことで長時間駐車されているのが目につくそうです。

我々が生きて行く上にも自動車免許、また駐車ステッカー等は、現在の自分達にとっては大事なものです。

せっかく与えられた権利を失なわないようお互いモラルは充分守りましょう。

身障手帳三級の腎臓病患者の医療費が無料になります

前号でお知らせしましたが、昭和五十二年度東京都予算の都議会成立により、本年九月から、身障手帳三級のじん臓病患者の医療費が無料化されますので、次に掲げる臨床検査成績に該当する方は、身障手帳交付の申請をして下さい。

○身障手帳三級（じん臓障害）の臨床検査成績——身障者福祉法

（三級とは——）

①内因性クレアチニンクリアランス値が、 $10\text{ ml}/\text{分}$ 以上 $20\text{ ml}/\text{分}$ 未満

または血清クレアチニン濃度が、 $5.0\text{ mg}/\text{dl}$ 以上 $8.0\text{ mg}/\text{dl}$ 未満であって

②かつ、家庭内での極めて温和な日常生活活動に支障はないが、それ以上の活動は著しく制限されるか

または、

ア、じん不全に基づく末梢神経症

イ、じん不全に基づく消化器症状

ウ、水分電解質異常

エ、じん不全に基づく精神異常

オ、X線における骨異栄養症

カ、じん性貧血

キ、代謝性アシドーシス

ク、重篤な高血圧症

ケ、じん疾患に直接関連するその他の症状

のいづれか二つ以上の所見があるもの。

〔注〕、人工透析患者は、慢性透析療法開始後ではなく、開始する前の状態である。

腎臓バンク

提供者↓患者スムーズに
まず関東対象に

腎臓提供者と患者の間をシステム化する腎臓バンクが来月一日から関東地区（山梨県を除く）でスタートする。社団法人、腎臓移植普及会（小紫芳天理事長、東京港区新橋二の二〇の一五）が、死後自分の腎臓を患者に提供したいという人に「一〇番」を設け、主治医（遺族）から提供登録者の死亡通報があり次第、腎臓移植に対する協力の医療機関から摘出班が出勤するシステム。いわば腎臓移植のネットワーク方式で関西、東北地方でも検討が進められている。

腎不全に対する治療としての腎臓移植は、わが国で三十九年から本格的に取り上げられた。昨年までの移植例は、兄弟

など血縁からの生体腎と、死体腎の移植を合わせ六百九十一件（日本移植学会調べ）。このうち、死体腎は遺族らの了解を得るのに難しいなどの理由で一〇％程度だが、四十三年に千葉大で移植が成功、拒絶反応も見られない点などから死体腎による治療に関心が高まっていた。

このシステムは、死後、腎臓を提供する意思のある二十歳以上の人が同普及会に登録、同普及会で「腎臓提供者カード」を発行して、常時携帯してもらう方法。提供者が死んだ場合、医師（遺族）はこのカードに記入されている国立佐倉療養所（二十四時間待機）の専用電話に通報。同療養所は通報者にもっとも近い担当医療施設へ連絡、腎臓の摘出班を出勤させるとともに、すでに登録してある移植を希望する人の中から血液型などが適合する人を選び、摘出した腎臓を運んで移植を行う。

しかし、腎移植の態勢が整っている医

療施設は少なく、協力病院は関東地方で十二カ所だけ、山梨県では協力病院がないため、システムから除かれた。それに死後、腎臓を摘出して無菌状態のまま臓器保存するまで最大限一時間半といわれ、連絡を受けても所によっては間に合わないという事態も心配されている。

一方、腎移植の手術は、手術料や入院料など約三百万円かかるが、保険給付の対象外のため厚生省は「検討したい」としている。

なお、問合せ先は腎臓移植普及会（電話 03・573・1769）。

（毎日新聞5月31日付朝刊）

じん臓バンクスタート

あすから一都六県で

一二年間で二万人登録目指す

じん臓疾患の治療方法として脚光を浴びている「じん臓移植」を軽道に乗せよ

うと、あす一日から、「じん臓バンク」がスタートする。社団法人腎臓移植普及会（東京・新橋）が厚生省の委託で、まず東京はじめ関東の一部六県（山梨県は除く）で実施するもので、国立佐倉療養所（千葉県佐倉市）に、じん臓センターを設置、十二病院をネットワークで結び、じん臓提供者の死後、移植希望者にすぐに移植できる体制も整備していく。同普及会ではスタートと同時に死後にじん臓を提供してくれる人（ドナー）の登録を受け付けている。二年間で一万人の登録を目指しており、死の不安の中で闘病生活を送る患者たちにとって、朗報になりそう

だ。
現在、じん臓移植を希望している患者は、全国で二千七百人程度。しかし、じん臓移植システムは欧米に比べ、立ち遅れておりなかなか手術を受けられないのが実情。

スタートするじん臓バンクのシステムは、国立佐倉療養所に、じん臓センターを設置、さらに一都六県を六ブロックにわけ、計十二の担当病院を置く。各ブロックと代表病院は▽「東京Aブロック」（都

内の十八区四市、埼玉、群馬県）■東大医科学研究所▽「東京B」（都内の五区二十二市六町村）■東京女子医大付属病院▽「神奈川A」（藤沢市など七町）■東海大学病院▽「神奈川B」（横浜市など十一市八町村）■北里大学病院▽「千葉」（全県）■国立佐倉療養所▽「茨城・栃木」（両県全域）■筑波大学病院となっている。

一方、同普及会（電〇三―五七三―一七六九）では、じん臓提供者の登録を進めるが、申し出たドナーの氏名、住所、血液型などを佐倉療養所に登録、かわりに「じん臓提供者カード」を発行する。また、じん臓移植希望者の登録も同時に進め、提供者の遺族などから連絡が入れば、いつでも対応できるよう二十四時間体制をしく。

（読売新聞5月31日付朝刊）



事務局からの お知らせ

会費納入についてのお願

この度、全腎協の規約が改正されて会費納入方法が変更されました。今までは、その年度に納めればよかったものが、その年度の初めに納入することになりました。会員の皆様には、何かと出費の多いことと思いますが、何卒私達の運動を進めていく上で、ぜひとも協力下さるようお願い致します。

近日中に事務局から、振替用紙をお送り致しますが、なるべく早い時期に送金下さるようお願い致します。

尚、今後は会員納入と同時に、台帳に記入し、それが機関誌等の送付の基準となりますのでご了承下さい。

人工腎臓患者カード 配付について

第三回代表者会議で出されていまして「人工腎臓患者カード」を患者に配付し

人工腎臓患者カード

私は人工腎臓で治療中の患者です。

私の左手、足には特別の手術がしてあります。出血がひどい時は裏の写真を見て、出血を止める応急処置をして下さい。その上で救急車で近くの医師のところにはごんごんで下さい。同時に下のところに至急連絡して下さい。

私に何らかの異常があった時もどうぞ同様に連絡して下さい。

氏名 _____ 年齢 _____ 年 月 日 生

住 所 _____ 電話 _____

血液型 _____ 型

透析主治医 _____ 先生にすぐ連絡して下さい。

住 所 _____ 電話 _____

① 私の左手は図1のように手術をして皮膚の下で、動脈と静脈が結合されています。

けが等で左手の血管を傷つけると普通の人のようには血が止りません。

② けがをして私の左手から出血がひどい場合は、図2のように私の左手の手術前を親指でしっかりおさえて下さい。必ず口からの出血は止ります。はなすときははげしく出血しますので、図2のように親指で押さえたまま近くの科に連れて行って下さい。

処置して下さいる先生へお願い。

図1のように皮下で動脈と静脈とを吻合して動脈流がとどくようになります。手術前のように吻合部がありますので、そこを圧迫して止血し、出血部を切開して露出し、出血している血管の中核部、末梢部をそれぞれ結紮して下さい。不明な点は表記の透析医に別途質問して下さい。



図1



図2

てほしいとの要望を実現するため、このほど株式会社小玉より同カードを購入いたしました。(19ページ参照)

配付方法については三役で検討した結果、会員については無料配付とするので、必要枚数を事務局まで連絡下さい。連絡が入り次第お送りします。

東難連が事務所移転

謹啓 新緑の候皆様方には益々御清業のことと御喜び申し上げます。

日頃は私共難病患者および東難連のために御高配を賜わり厚く御礼申し上げます。

さて、今般東難連事務所を左記住所に移転することになりましたので御知らせ致します。当所でも引続き難病患者の電話通信相談を実施する予定でありますので、今後共宜しく御指導の程御願ひ申し上げ事務所移転の御挨拶にかえさせていただきます。敬具

昭和五十二年五月

移転月日 昭和52年5月11日～12日

移転先 〒101 千代田区

昭和五十一年二月二十五日第三種郵便物認可
SSKO通巻第百三十九号
昭和五十二年七月四日発行

新電話番号

東京難病団体連絡協議会(東難連)

会長 平沢 三吾

編集

後記

東腎協総会、全腎協総会が終って思つてひまなく機関誌の編集にとりくんできましたが、やっと終わることができました。機関誌編集の最大の悩みはなんといっても原稿が予定どおり集まらないことです。少しページ数が足らないから、適当に穴うめしておこうというような記事がどうしてもできてしまいます。今号もまたその例外ではありません。もうすぐ夏です。暑さに負けないようくれぐれもお身体をお大事に。

(加藤)

発行所

身体障害者団体定期刊行物協会 領備百円
東京都世田谷区砧八二一―三